

# 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

各授業改善委員の学習指導案は、全体テーマ「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を踏まえて、「教師の活動及び指導上の留意点」の欄に、【主体的な学び】、【対話的な学び】、【深い学び】という文言を記載し、授業を行う際の教師の意識や視点が分かるようにした。

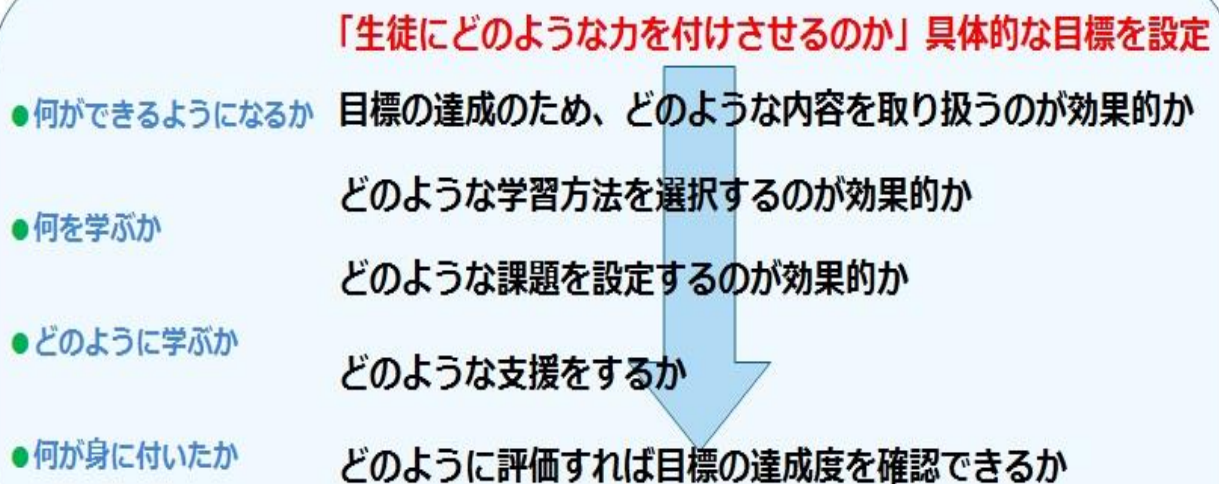
ただし、それぞれの「学び（【主体的な学び】、【対話的な学び】、【深い学び】）」は、教師の働きかけによってすぐに表面化するものとそうでないものがあり、1時間の授業ですべての学びが完結することを指すものではない。年間の指導や単元全体の指導を通して、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことを踏まえた意識的な働きかけが重要である。

以下、それぞれの「学び」の実現につながる授業を計画する際に重要となる視点と教師の働きかけ等の例である。

## 【視点】

### 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業

### 大切なのは授業デザインの順序



## 【教師の働きかけ等】

### ◆【主体的な学び】の実現に向けて

- ・何を目的とし、どのような活動を行うのか、明確に指示を出す。
- ・テーマや話題は、教科書の内容と関連した生徒の興味関心のあるものを選ぶ。
- ・活動のゴールや目指す型について、「教師がデモンストレーションする」、「リテリング、サマリーなどのモデルを示す」等、どこまでできればよいか見通しをもたせる。
- ・机間指導を通して、適宜、必要なアドバイスをする。
- ・生徒間でもお互いに良い点を伝えるなど、前向きな姿勢を維持できるよう声を掛ける。
- ・生徒の状況を見て、どのように負荷をかけるかなど柔軟に対応する。
- ・ルーブリック等を用いて、生徒自身が自分の学びの成果を捉えられるようにする。
- ・振り返り場面を設定し、言語面（内容面）での振り返りを自己評価、相互評価させる。
- ・日々の学習（単語や構文等）の確認と強化（使う練習）を行う。 など

### ◆【対話的な学び】の実現に向けて

- ・安心して言語活動に取り組める信頼関係や環境づくりに努める。
- ・発表の際には、常に相手意識をもたせ、聞き手や話し手に配慮しながら、「やり取り」ができるように意識させる。
- ・教科書の題材や対話の内容について理解したり、意見や考えを交流したりする場面を設定する。（例：Small Talk、Oral Introduction、Discussion、Debate、Role Play など）
- ・それぞれの活動の目的に合わせて、ペア活動やグループ活動など学習形態を工夫する。
- ・机間指導をして、ペアやグループでの活動状況に、適宜アドバイスやフィードバックを行う。
- ・発問に対して、教師と生徒の1対1だけのやり取りにならないよう、生徒と生徒、クラス全体で共有できるようにファシリテートする。 など

### ◆【深い学び】の実現に向けて

- ・単元の内容に関連したオーセンティック教材に取り組ませる。
- ・教科書の重要表現を使わせる活動を設定する。
- ・課題設定については、1人では難しく、協同によって解決できる程度の課題とする。
- ・発表したことを書く活動につなげたり、書いたものを見ないで発表したりすることによって、自分の意見を再構築させる。
- ・問いに対して深く考え、批判的、多角的な視点を持つことができるような時間を確保する。
- ・学習した内容について、身に付けた知識・技能を活用し、発表したり対話したりするなど、アウトプットを目指した統合的な言語活動を計画的に行う。
- ・アウトプットに向けた練習時間を保障する。 など